



鶴見大学図書館 第69回ミニ展示 展示案内

# 大江山の歌

平成29年7月13日(木)～23日(日)



小式部内侍、定頼中納言の袖をひかえる



版本「十訓抄」挿画 鶴見大学図書館蔵

## 読んでみましょう

鶴見大学日本文学会の講演会と、7月のオープンキャンパス当日にご覧いただくため、図書館貴重書のミニ展示、「大江山の歌」を企画いたしました。おもに高校生のみなさんと先生方、学校で「古文」を学んだ頃を懐かしく思う方々に、立ち止まって読んでいただければ幸いです。

こうして古い本が開かれているときに、「変体かなや草書を勉強して、たくさん覚えたら読めるようになるかも。」と、やってみないままに遠ざけてはいませんか。それでは、もったいない。

よく勉強してからでなくてもよいのです。変体かなを三つぐらい覚えたら、なじんだ古文が書かれている部分を開き、一字ずつにらみ、「この字を読みたい。」と念じて読み、読めない字はとばして先へ進んでゆくうちに、「あ、知らなかったのに、読めた。」ということがあります。教わって覚えなくても、ひとりで試みていると、知っている字の数が知らず知らずのうちに増えています。

慣れたところで、「大江山の歌」が載っている「十訓抄」以外の古典も読むと、いろいろな違いに気づきます。判読力も高まっていることでしょう。そのあたりに研究の入り口があるのです。

テストに出るわけでもないのに、覚えて、わかるようになる、この楽しさ。

小さな展示が、古い本に親しむ小さなきっかけになりますように。

平成29年7月13日

文学部日本文学科教授(書道) 松本文子

### じっきんしょう 1 十訓抄

・版本「十訓抄」 A 12冊 享保6年(1721)刊

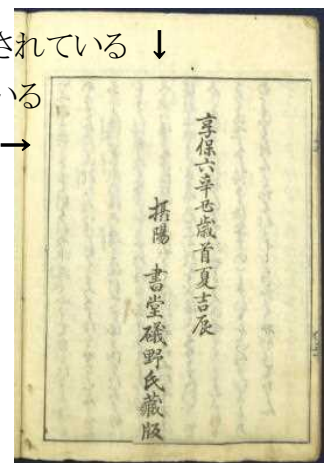
・版本「十訓抄」 B 端本(第3冊のみ、刊記なし、Aと同版か)

六波羅二藤左衛門入道(生没年未詳)編か。10ヶ条を立てて例話を集めた説話集。童幼に善悪について示す。「卷三 不侮人倫事」に「大江山の歌」を含む説話あり(第3冊、8才～9才)。

▲この作品ができたのは 建長4年(1252)

▲この本ができたのは 享保6年(1721)

刊記 この行は修正されている ↓  
後刷りはここが切れている



匡郭に段差あり ↑

この版本を読んで、高校生のときの教科書と何だか違う、と気づく方があると思う。たとえば、「丹後へくんだりりけるあとに」と書かれた教科書もあった。写本「十訓抄」に基づく本文が載っていたのである。

版本に、元禄・享保・寛延・文化・天保・明治の各版あり。元禄版には匡郭なし(「早稲田大学古典籍総合データベース」に掲載)。画像で見た限りだが、享保版以後の刊記下部、匡郭には段差があり、二行目の中心が通らず、「撰陽」と「書堂磯野氏藏版」の字粒が揃わず、下が詰まっている。この版以前に、刊記未修正の享保版があったのだろうか。寛延以後の版は、享保版の刊記を用いて、次丁に新たな刊記を加えてある。

## 2 古今著聞集

・版本「古今著聞集」 20冊

橘成季(生没年未詳)編。「今昔物語集」、「江談抄」にならい、年代順に整理した説話集。巻五(第6冊、33ウ～34オ)に「大江山の歌」を含む説話あり(183番歌)。

▲この作品ができたのは 建長6年(1254)「十訓抄」の2年後

▲この本ができたのは 元禄3年(1690)(底本は、暦応2年(1339)(北朝)の写本)

表紙に「成瀬家蔵書」ラベル、巻首に蔵印「犬山府図書」あり。成瀬氏は尾張徳川家付家老。

## 3 袋草紙

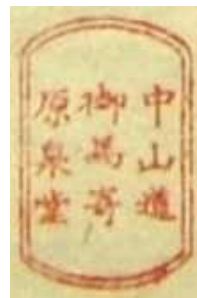
・版本「清輔袋草紙」 20冊

藤原清輔(1104—1177)著。二条天皇(1143—1165)のために書かれた、平安末期を代表する歌学書。巻第一(第1冊、15ウ)に「大江山の歌」あり。

▲この作品ができたのは 平治元年(1159)まで、以後増補あり

▲この本ができたのは 貞享2年(1685)(底本は、慶安元年(1648)の写本)

蔵印、巻首に「森羅亭[卍に象の象形、森島中良]」「中山道御馬寄原泉堂」、巻末に「真糸庵」「房得」。



## 4 金葉和歌集

… ●のみ展示

五番目の勅撰和歌集。天治元年(1124)の白河上皇(1053—1129)院宣により、源俊賴(1055—1129)撰。巻第九、雑部上(587番歌)に「大江山の歌」あり。他に「八代集」「二十一代集」にも「金葉和歌集」あり。

▲この作品ができたのは 大治2年(1127)頃か(三度目の改撰本)

〈写本5種〉

・写本「金葉集」 A ● 鶴見大学図書館 ID1210524 1冊 袋綴

蔵印不鮮明(重ねて押印)。

・写本「金葉和歌集」 B ● 鶴見大学図書館 ID1097693 1冊 列帖装

表紙に書写者自署「勢祐」。

・写本「金葉和歌集」 C ● 鶴見大学図書館 ID1348700 他 2冊(上・下) 列帖装

筆者を高倉永孝(1560—1607)とする神田道伴の極札。蓋裏に旧蔵者識語「木村伝次郎」。

・写本「金葉和歌集」 D ● 鶴見大学図書館 ID1349037 1冊 列帖装

蔵印「押小路」、「岡田真之蔵書」。

・写本「金葉和歌集」 E ● 鶴見大学図書館 ID1270877 1冊 袋綴(五ツ目綴じ)

旧蔵者識語「此主 佐藤幸太郎 川口門太郎」(ミセケチ、同氏蔵印「羽前 川 山邊上町 河戸屋」)、蔵印「久曾神蔵書」。

▲これらの写本ができたのは 江戸時代

〈版本〉

・版本「**金葉和歌集**」● 3冊(上・下・付録)

松田直兄〈1783—1854〉(正四位下伊予守賀茂の縣主)編。藤園塾刊。

▲この本ができたのは 天保9年〈1838〉

## 5 百人一首

・版本「**百人一首一夕話**」 9冊

尾崎雅嘉〈1755—1827〉著・大石真虎〈1792—1833〉図

第五冊(27ウ～30ウ)に「小式部内侍」あり。同冊に「和泉式部」「権中納言定頼」あり。岩波文庫『百人一首一夕話』上・下に翻刻あり。上冊、384頁に「小式部内侍」。

▲この作品・この本ができたのは 天保4年〈1833〉

・【**百人一首かるた**】 〈江戸時代〉 鶴見大学図書館 ID1155112 1組(4組所蔵のうち)

読み札、取り札6枚(「和泉式部」「小式部内侍」「権中納言定頼」)を展示。競技かるた入門書、『暗記 百人一首』(ダイヤモンド社)に、このかるたの写真掲載。

## 参考

「大江山の歌」が載っている古い作品の例を挙げる。さがして読んでみよう。

- ・「**梁塵秘抄**」〈1179〉か 後白河院編の歌謡集  
『日本古典文学大系』73、429頁
- ・「**俊頼髓脳**」〈12世紀初〉 源俊頼の歌学書(伝本によって書名が異なる)  
『日本古典文学全集』50「歌論集」、259頁
- ・「**無名草紙**」〈1196～1202頃〉 物語評論  
『日本思想大系』23「古代中世芸術論」、394頁

さらに関心あれば

- ・展示ケース脇のブックトラックに、参考文献の一部が取り置いてある。付箋の頁を開いてみよう。
- ・「国立国会図書館サーチ」、国文学研究資料館「電子資料館」を使い、「大江山の歌」の章段に関する論文を検索してみよう。(「十訓抄」「小式部」「大江山」などの語を入れる。)
- ・上記のほか、「早稲田大学古典籍総合データベース」を使って、展示されている古い本や、同じような本を、WEB上の画像で読んでみよう。

◆MEMO◆